

科目名称：	こども特演V（乳児保育I）	
担当者名：	米川祥子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
近年、乳児保育の需要の高まりや乳児期の育ちの重要性が確認され、乳児保育への深い学びが求められてきている。「乳児保育I」では、初めて乳児保育を学ぶ学生が、乳児期は人間として成長する基礎づくりとして非常に重要な時期であることを理解し、将来、子どもを持つ親という立場になるかもしれない者としての責任と魅力を感じてもらいたい。		
授業の達成目標・到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●0・1・2歳児の心身の発達を理解する。 ●0・1・2歳児保育の対応を知る。 ●一人ひとりの育ちを大切にす視点をもち。 		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)	0		60	40	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》臨床心理士・公認心理師として、白山市幼児相談	《経験年数1》 18年
	《内容2》臨床心理士として、高岡市1歳半健診相談員	《経験年数2》 2年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解度	授業内容を理解し、乳児保育に意欲を抱いている。	乳児保育者として望ましい対応を理解している。	乳児保育者としての対応の重要性を理解している。	乳児保育者としての重要性が何かを理解できない。
授業態度	授業の内容に興味関心を抱き、意欲的に取り組んでいる。	授業の内容に興味関心を抱き、課題をこなしている。	授業での課題をこなしている。	授業に興味関心を抱けない。
自身の考察	授業をふり返り、自分に引き付けて捉え、自分の考えを導き出している。	授業をふり返り、自分に引き付けて捉えることができる。	授業をふり返り、自分の思いを書くことができる。	授業をふり返り、内容の報告に留まっている。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 乳児保育とは一歴史と現状	乳児保育に関連する社会情勢の情報収集をしておく	30分
第2回 子ども・子育て支援制度	教科書の「保護者支援」の部分を読んでおく	30分
第3回 「乳児」を知る ①赤ちゃん	自らの育ちの情報収集をしておく(親から)	30分
第4回 「乳児」を知る ②0歳児の心身の発達	教科書内0歳児の項目を読んでおく。ノートにまとめる。	30分
第5回 「乳児」を知る ③1歳児の心身の発達	教科書内1歳児の項目を読んでおく。ノートにまとめる。	30分
第6回 「乳児」を知る ④2歳児の心身の発達	教科書内2歳児の項目を読んでおく。ノートにまとめる。	30分
第7回 乳幼児の心理発達過程	教科書の0～3歳までの発達過程の部分を読んでおく	10分
第8回 応答的対応について「愛着関係」	教科書の「愛着関係」の部分を読んでおく	10分
第9回 ジョイントネスとアタッチメント	教科書の「アタッチメント」の部分を読んでおく	10分
第10回 自己主張と対応	教科書の「2歳児」の部分を読んでおく	30分
第11回 アタッチメントと個人差	教科書の「アタッチメント」の部分を読んでおく	10分
第12回 (保育指針より)0・1・2歳児保育	保育指針の「0・1・2歳児保育」の部分を読んでおく	10分
第13回 保護者との連携(家庭をとりまく環境、親の思い)	自分の親へのインタビューをして、レポート作成しておく	30分
第14回 保護者との連携(園での保護者支援の取り組み)	保育現場で行われている支援について調べておく	30分
第15回 乳児保育の重要性(乳児保育観をまとめる)	これまでの授業内容を見返しておく	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

授業への積極的態40% 提出物60%

課題に対してのフィードバック

各課題に対して、その都度コメントシートでフィードバックする。最終課題は、希望者には返却する。

教科書・参考書

「乳児の発達と保育～遊びと育児」 エイデル研究所
「はじめて学ぶ乳児保育」第二版 同文書院